

平成30年度学校関係者評価書

<<評価の視点>>

- 教育活動や学校運営に向けた取組が適切かどうか。
- 学校の自己評価が適切に行われたかどうか。

1 「知」の取組

学習指導の工夫・改善と個に応じた指導の充実による学力向上

学力検査の結果、前の学年よりも良くなっているのは、毎日の授業や「タトレ」や「スキトレ」「学力コンテスト」などの効果と考える。生徒の人数が少ない本校の良さとするので、今後も続け、基礎的・基本的内容が身に付くよう指導を続けてもらいたい。昔と比べて、最近では家庭教育が十分にできず、子どもをほったらかしにしている保護者も増えているように思うので、「宅習ノート展」や「宅習集会」のように、生徒が自分で考えて自宅での学習ができるようになるための指導を今後も続けてもらいたい。

2 「徳」の取組

社会の変化に対応できる能力と郷土を愛し他人を思いやる豊かな心の育成

ニュース等で伝えられる最近のいじめは、陰湿になってきているように思える。西門川中では深刻ないじめがないと聞き安心している。小学校時代や別の中学校時代に欠席が多かった生徒が元気に登校しているのも、学校が一人一人を大切にされた指導を行い、生徒もやさしい子どもたちが多く、安心して登校しているのであろうと考える。西門川中を卒業した後も、元気に過ごすために、やさしさや思いやりと共に、困難なことに出会ってもくじけないたくましさも身に付けさせてもらいたい。その点では、今年度の学校経営のキーワードとして掲げられていた「チャレンジ＝挑戦」はよい取組であったと思う。

数年前と比べ、生徒一人あたりの毎月の読書量は増えているが、家庭で読書をする習慣づくりは毎年課題となっている。難しいことかもしれないが、保護者への呼びかけは今後も続けていってほしい。

3 「体」の取組

体力向上と健康安全に対する意識の高揚

「体力向上週間」を年間4回行い、生徒と一緒に先生たちも一緒に走っていらっしやるのが素晴らしい。今年の長距離走大会は当日の天気が悪く、実施について判断が難しかったと思うが、毎年楽しみにしているので、次年度以降も続けてほしい。「性教育」については、昨年よりも評価が上がっているので、今後も計画的に進めてもらい、成果が現れるよう計画してほしい。

4 保護者・地域との連携・融合

保護者や地域住民の期待に応える、地域に根ざした教育活動の推進

学校便りを地域にも回覧してもらっているので学校の様子を知ることができる。西門川中のホームページの閲覧数も1日あたり100～150名程度と聞き、関心の高さに驚いた。高齢者の家庭ではインターネットを見ることは少ないので、毎月2回の学校だよりは今後も続けてもらいたい。

1年後は閉校となるため寂しくなるが、よい締めくくりができるよう、地域との関わりや保護者との連携を図ってほしい。

西門川中学校学校関係者評価委員（学校評議員）